

中高一貫教育だより

令和4年12月21日（水） 第3号発行

今年度の中高英語交流授業は11月で終了しました。また、12月には理科の出前授業を実施しました。今回は英語の交流授業と理科の出前授業の様子をお伝えします。



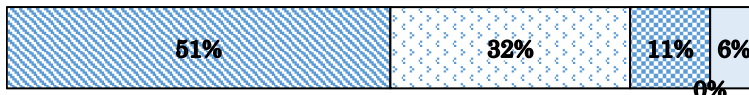
<英語の交流授業>

中学3年生を対象とした英語の交流授業全15回が終了しました。11月10日（木）～15日（火）の平日4日間は、軽米高校の小野寺陽子先生と中野実奈先生が主担当で集中講義を実施しました。内容は昨年同様ディベート活動で、主な活動は次の通りです。

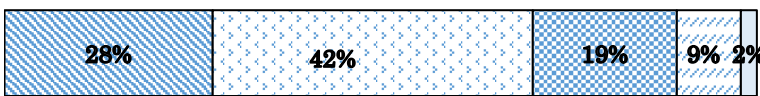
10日（木）	高校1年生のディベートの様子を動画で見せる。／動画とスクリプトを使ってディベートの方法を解説する。／キーフレーズの使い方を練習する。／ロールプレイで練習する。
11日（金）	前回の復習をする。／練習用のトピックで賛成と反対の理由を考える。／日本語の理由を英語にする。／本番用のトピックについて賛成と反対の理由を日本語で考える。
14日（月）	前回考えた日本語の理由を英語にする。／英文を紙に書いて黒板に貼り教員が添削をする。／英文をクラス内でシェアする。／英文の音読練習をする。
15日（火）	前回作った英文の意味を再確認し、音読の練習をする。／ディベートの型に沿って、キーフレーズと理由を組み合わせて練習する。／ピンポンディベートをする。

【集中講義を受けた中学生の事後アンケートの集計結果より】

質問1：ディベートの授業に関心を持って参加することができた。



質問2：中学校で学んだ英語を、今後どのように活用していくかについて考えたり気付いたりできた。



グラフは左から

- ・あてはまる
- ・ややあてはまる
- ・どちらともいえない
- ・あまりあてはまらない
- ・あてはまらない

質問3：集中授業を受けて良かった。



以下は、生徒の感想の一部です。

- ・ディベートは話すだけでなく聞く力も大切で、聞く力、書く力、読む力も前よりついたなと思った。（3A）
- ・班ごとの活動はいつもやっているけど、クラスで1つのことをやるのは初めてだったので楽しかった。自分の考えた理由をどのようにすれば英語に直しやすいかなど考えることができたので良かった。（3A）



- ・英語で議論しあうことが初めてだったので楽しく話すことができた。(3B)
- ・私は英文を書くのが苦手だったので、書く力を伸ばせました。そして、発表するために相手の意見を聞く力を伸ばせてよかったです。(3B)

＜担当者（小野寺陽子先生）からのコメント＞

週1回のライティングを通して、表現力を身につける活動を行い、ディベートでは自分の意見とともに、相手の意見を聞き取る力を育てるように取り組んでももらいました。互いの意見を深める作業はとても有意義であったと思います。この学習を通して英語力にさらに磨きをかけてください。期待しています！私も勉強になりました。

＜理科の出前授業＞



12月6日（火）中学2年生を対象に「豚の目の解剖実験」を行いました。軽米高校から鈴木麗先生が中学校を訪問し実験をしました。最初は戸惑った生徒もいたようですが、印象に残る体験となったようです。下記に生徒の感想の一部を紹介します。

- ・ブタの目の解剖をして、最初は気持ち悪いなと思ったけど、だんだん慣れてきて少し楽しかったです。網膜がしっかり視神経の所に集まっていて、すごつくりが細かいなと思いました。水晶体はとてもきれいで、しっかり字も大きく見えてすごいなと思いました。(2A)
- ・普段解剖したりすることが無かったので、今日の授業で目の構造やつくりを見る事ができたし、自分の目のつくりもこんな感じになってるんだなと知りました。最初はできるか不安だったけど、意外とできたので良かったです。(2A)
- ・解剖をして目の中は黒くなっていて光を通さないようになっているのが分かりました。遠いところや近くを見るときには筋肉を縮めたり、緩めたりして見ているのが分かりました。(2B)
- ・目は半分に切ると目の中は黒いことが分かったし、ガラス体が透明なことが分かった。水晶体はドロドロではなく、球体をしていることが分かった。視神経は意外に太くてかたいことも分かった。あと真ん中にはついていなく、右目だったら左側についていて、左目だったら右側についていることが分かった。(2B)



＜担当者（鈴木麗先生）からのコメント＞

豚の眼球の解剖を実施するのは、なかなかできない経験を提供したいと考えたからです。これができるのは中高が連携している軽米地域だからなのだと知っていただけたら幸いです。解剖について、最初は抵抗感があった人も多いと思いますが、やってみる中で徐々に慣れていったのではないのでしょうか。何事もやってみることが大事で、「百聞は一見に如かず」です。本物に触れる経験からの学びを大切にしてほしいです。